

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒860-0811 熊本市本荘 2-2-1
熊本大学医学部公衆衛生学教室
TEL (096) 373-5112
FAX (096) 373-5113
発行責任者：地方会長 二塚 信

(題字 倉恒匡徳筆)

巻頭言

地方会長 二塚 信

(熊本大学医学部公衆衛生学教室)

会員の皆様、新年おめでとうございます。昨年は12月14日に地方会の産業看護部会の発足という良いニュースで年の瀬を送りました。

ところで本号では農業や中小零細企業を含むインフォーマルセクターの労働安全衛生と重要視すべきことを述べたいと思います。ILOでは国際労働衛生重点プログラム(Safework Infocus Programme)を設定して、国際労働基準に従ってすべての労働者の保護という基本目標を追究し、各国政府の企業における安全保健政策とプログラムの策定・実施能力を高めることを目指しています。その上で、同プログラムでは次の4つの具体的な目標を掲げています。(1) 災害発生率の高い職種(鉱業、建築業、農業等)における安全保健プログラムを推進する。(2) インフォーマルセクターにおける労働者保護を推進する。(3) 労働者の健康と福祉を増進する。(4) 労働者保護が費用効果的にも生産性の向上に役立つことを明らかにする。というものです。国際条約としては1981年採択のILO第155条約(安全衛生)は原則として農業を含む全産業をカバーする労働安全保健政策をうたっています。アジアでは、ヴェトナムとモンゴルがこの条約を批准している他、マレーシアが1994年にアジアで最初に全産業をカバーする包括的な労働安全衛生法を制定した国として知られています。農業は重要な産業保健上の課題と位置づけられており、安全保健改善のためのマニュアルやトレーニング教材の作成、労働基準監督官へのトレーニングが行われています。農業における労働安全保健の継続性ある進め方を示した取り組みとして、ILOで開発され実践されてきたWISE(Work Improvement in Small Enterprises)プログラムの参加型手法が、ヴェトナムのカント省安全保健・環境センターを中心にWIND(Work Improvement in Neighborhood Development)

プログラムとして農業労働に応用され、独自の発展をみせています。この動きはフィリピン、タイにも拡がり、わが国でも一部取組みが進められています。

そして、2001年の第89回ILO総会において、農業の安全衛生に関する条約(第184号)と勧告(第192号)が採択されました(日本は政労使ともに賛成)。この条約と勧告は鉱業及び建設業と並び3大危険産業といわれる農業の安全衛生を扱う初の包括的な国際基準として、国内政策開発の際の全般的な枠組みを定めています。条約は批准国に対し、農作業場の適切な監督システムを導入し、適切な手段で実施するよう求めています。使用者による労働者の安全衛生確保義務、農業労働者の安全衛生事項に関する情報と協議を受ける権利を定めています。適切なリスク評価とリスクマネジメントの手段、機械の安全と人間工学に関する予防・防護措置、化学物質の管理、動物の扱い、農業施設の建造と保全等が取り上げられています。また、若年者と児童労働、臨時・季節労働者、女性労働者、傷病保険、福祉・居住施設に関する規定が含まれています。さらに注目されるのは、条約適用に関し、自給自足農業、農業関連産業、林業の除外は可能であるが、労働者保護は、自営農民も含め全労働者をカバーするという原則が立てられ、さらに勧告で、条約の提供する保護を漸進的に自営農民にも拡張するよう規定しています。

農業や林業を含む一次産業は九州の重要な地場産業です。本学会でも熊本、鹿児島、福岡を中心に全国的にも注目される活動を展開してきましたが、産業衛生学会で重要視されてきたとはいえません。ILO第184号条約のわが国における批准を促すとともに、会員の皆様に本問題に関する重要性に関する認識を共有して頂きたいと願うものです。

受賞のことば

日本産業衛生学会奨励賞を受賞して

堀江 正 知

(産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学)

私は、福岡市出身で、川崎市
のNKK（日本鋼管(株)）に15年
間勤務しました。2001年度から
は、出身大学で次世代の産業医
を育てる教育に従事しています。



今回、栄えある賞をいただく
ことになり、製鉄所の専属産業医としてのこれまでの現場
活動が評価されたことに感激しておりますとともに、親身
になってご指導いただいた諸先生方と一緒に働いてきた仲
間に深く感謝いたしております。

私は、NKKの現場と労働者の両方を最もよく知る医師

になることをめざして活動し、現実的な暑熱・騒音をはじ
めとするさまざまな有害要因に対して休憩方法や保護具の
改善などの対策をすすめ、その一部を日本産業衛生学会な
どで発表してきました。また、就業年代を対象としたイン
フルエンザ予防接種について一回法の有用性を証明する根
拠を示しました。近年、経済不況に遭遇しましたが、労使
の理解を得ながら企業内産業保健組織の改革を遂行し、労
働者の健康と仕事上のばく露との適応を推進する機能を存
続させることができました。また、産業医に専門的資格要
件を求めた安衛法の改正（1996年）、学会の産業保健専門
職の倫理指針の作成（2000年）、およびILO code of practice
“Ambient factors in the workplace”（2001年）の起草
に携わることができたのは大変貴重な経験となりました。

これからも、現実的な職場改善対策の考案と応用を推進
するとともに、在職死亡の研究と労働者の健康情報の研究
を継続し、九州地方会から全国の現場の産業医活動を支援
していきたいと考えています。

今後ともよろしく願いいたします。

研究紹介・学会報告

宮崎医科大学との共同研究紹介

小 宮 康 裕

(宮崎沖電気(株)健康推進室)

宮崎沖電気(株)は宮崎郡清武町にあるLSIの一貫製造工場
で、関連会社を含めて約1700名が働いています。宮崎医科
大学に車で10分という好環境に恵まれ、公衆衛生学講座の
加藤貴彦教授やスタッフの方々と共同研究を進めさせて頂
いています。社員にも直接その結果や成果を還元できる研
究も多く、今回はその中から睡眠時無呼吸の調査、骨密度
に関する研究、感受性遺伝子診断を用いた節酒や禁煙支援
について紹介致します。

睡眠時無呼吸は、以前から、家人に睡眠時無呼吸を指摘
されるという相談を数件受けていたことから興味があり、
いびきなどに対する実態調査と希望者に対する簡易睡眠時
無呼吸検査（SaO₂と脈拍数を睡眠中に連続測定する）を
実施しました。188名の被験者中、中程度以上の睡眠時無
呼吸が35名（18.6%）に認められました。高度の睡眠時無

呼吸者には専門病院での検査入院を勧め、ポリソムノグラ
フィーにてすべての検査者で簡易検査と同様の検査結果を
得ており、既にCPAPによる治療を開始している人もいま
す。また、睡眠時無呼吸の診断を契機に生活習慣を改善し、
睡眠時無呼吸の軽快とともに他の生活習慣病も克服する例
が出てきました。今後も検査数を増やし仕事との関係まで
調査できればと考えています。

骨密度に関しては、骨密度と生活習慣、健康診断データ、
骨代謝マーカーとの関連を調査しています。特に女性に関
しては、もともと男性に比べ最大骨密度が低いこと、出産
や月経といった骨密度に大きく影響する要因があることか
ら骨密度の経年的測定を行い、ライフステージに応じた効
果的な介入方法についても検討を進めています。

また、感受性遺伝子診断に関しては2002.10月に意識調
査を実施し、遺伝子診断結果を知りたいとする人が50%を
上回り、知りたくないとした人は10%以下で予想以上に関
心が高いことがわかりました。特に、飲酒習慣や喫煙習慣
がある人に知りたいと回答する人が多い傾向がありました。
節酒や禁煙には正しい知識とともに、強い動機が必要であ
り、感受性遺伝子診断を十分な説明と同意のもと節酒や禁
煙支援に応用していくことも検討しています。

第27回国際労働衛生会議 ブラジル、イグアス：21世紀の流れ

東 敏 昭

(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学)

地球上で日本の丁度反対側に位置する国ブラジル。同国最大の都市サンパウロから南西に1000km、アルゼンチンとの国境にあるイグアス市(人口23万人)にて、第27回国際労働衛生学会(ICOH)が開催された。世界3大瀑布の一つを有する広大な国立公園に隣接したリゾート地区にある二つの高級ホテル、MabuホテルとBourbonホテルを会場として、2月23日から28日の6日間にわたって本学会が開催された。当地の季節は夏、高温多湿で気温が40度近くにもなる日もあった。

学会の概要

参加者数は公式に発表されなかったが2500人ほどと推定され、同伴者やスタッフを加えると4000名に近く、フィンランド、フランス、日本からの来訪者は100名を超えたと推定される。開会式には1500人近くが詰めかけた。開催は地元のテレビ局、新聞などの注目を集め、開催日のTVニュースでは4500名がこの学会のために同市を訪れたと紹介されたそうである。

本学会の学術発表の概要は、キーノートスピーチ10人(日本からは小木和孝労働科学研究所顧問)、ラウンドテーブル23(90人のスピーカー)、特別セッションは73(約400発表)に及ぶものである。これに加え、自由発表セッションが50(約490演題)、ポスター発表が332題登録されている。各演題には2800名が名を連ねたが、この内日本人は240名と大きな貢献を果たしているのが数字的にも伺える。

基調講演・ラウンドテーブル

今年のテーマは「equity: 公平性」で、このキーワードを中心に基調講演(表)やラウンドテーブルが設定された。地域、社会階層、経済状況、社会システム、就業形態などの様々な要因から生じている働く人間の健康への脅威と、これを防ぐサービスの不公平の是正のためのアプローチが、多角的に提示、議論された。科学的な議論の場としての本会の意義は勿論として、ICOHと専門家の存在意義についての議論、専門家集団としての社会への積極的働きかけを進める流れが全面に出た会でもあった。

新しい理事会

本学会前に郵送方式で行われた理事選出投票にて、ICOHの会長は、スウェーデンの国立労働生活研究所(NIWL)のBengt Knave氏からフィンランドのJorma Rantanen(FIOH所長)へと受け継がれた。理事会および総会での誘致演説を担当した高橋謙氏は、小木和孝現理事の再選とともに新理事に選出された。会長と副会長の他16名の理事会メンバーの中に日本から2名の理事が選ばれたことになる。

今後の展開など

国際学会の意義は、時代とともに変化していることを感

じる。特に本学会のような包括的な成長を遂げる学会には、科学レベルの推進とともに国際的な社会への影響力も期待されている。本学会に先立って行われた、世界保健機関の産業保健関連協力機関会議があり、わが国では産業医科大学産業生態科学研究所と産業医学総合研究所(将来正規の登録機関となる)が参加し、「全ての人に産業保健の恩恵」を目指した現在までの活動ならびに今後の国際協力について話し合いがもたれている。ICOHは34を数える分科会があり、それぞれに活発な科学的なレベル向上、研究協力への貢献が期待されている。この2年間に、「産業保健活動の評価・研究」、「ストレスと労働」、「ヘルスケア従事者の産業保健」などの分科会の日本での開催が予定されている。是非、関連ある、あるいは興味ある分科会へ積極的に参加していただきたい。

第27回国際労働衛生会議における基調講演など

会長講演

ICOHそして、労働安全衛生における公平性の問題

Bengt Knave (ICOH会長)

基調講演

・職域の安全衛生における不公平

(1) 問題の性質及び大きさ: Rene Mendes (Brazil)

(2) 原因と結果: Carlos Anibal Rodriguez (Argentina)

・危険有害物質の国際的輸出および子供の健康:

Philip J. Landrigan (USA)

—不公平性に関する症例研究—

・職域の安全衛生における公平性確保への対応

(1) 政治的取り組み: Hernan Sandoval (chile)

(2) 倫理的取り組み: Giovanni Berlinger (Italy)

(3) 公平性に基づく労働者への健康管理対策:

Jorma Rantanen (Finland)

(4) 公平性に基づく労働条件の改善: Jukka Takala (ILO)

(5) 健全な労働への取り組み: Marilyn A Fingerhut (WHO)

(6) 環境衛生への取り組み: Kazutaka Kogi (Japan)

(7) 専門家を動員する力: Barbara J McPhee (Australia)

(8) 南部アフリカにおける公正な仕事を求める取り組みに

より示された優先順位: Rene Loewenson (Zimbabwe)

第29回国際労働衛生会議 (ICOH2009) の 招致活動の顛末について

去る2月23日~28日、ブラジルのイグアスにおきまして開催されました第27回国際労働衛生会議(International Congress on Occupational Health)に参加し、帰国いたしました。先般より皆様のご支援をいただきました、2009年開催予定の第29回の本会の日本招致につきましては、残念ながら実現することができませんでした。招致委員会へのご参加、ご支援をいただきながら、誠に申し訳なく存じます。

決定にいたる経緯につきまして、簡単にご説明いたします。まず、学会開催前(23日午前)の理事会にて、今回の候補都市(日本:福岡、韓国:ソウル、南アフリカ:ケープタウン)の代表より、開催に当たっての準備状況、同地

開催の意義などについて誘致説明が行われ、各国ともに候補たりうる事が確認されました。

理事会での議論を漏れ聞くとによりますと、「アジア・オセアニア、南北アメリカ、ヨーロッパ・アフリカの3地域で順番に開催地を選ぶ方式を見直してもよいのではないか、途上国特に未だ開催されていない地に機会を与えるべきではないか」との意見があったようです。さらに同日午後の総会にて、参加者に対しての候補各都市（日本からは、理事会とともに高橋謙産業医科大学教授が担当）から誘致のプレゼンテーションが行われました。日本のプレゼンテーションは各国の経験あるICOH会員から、実績を踏まえた説明に対し高い評価をお聞きしております。

また、会場では候補3都市（国）による誘致広報のためのブースが設けられ、来場者への支持呼びかけと説明が24日～27日の4日間行われました。総会開催の23日から27日夕刻4時までを投票期間とし、本学会に参加した投票権を持つ会員（330強の投票用紙が発行されたとのこと）

による投票が行われました。27日夕刻、投票結果が管理委員会からケープタウンに決定したとの発表がありました。投票総数は284票で、内訳は公式には発表されませんでした。日本は二位、韓国三位とのこと。この背景について、理事会での議論、各科学分科会の運営会議などを通じての印象をまとめると、ICOHの欧米諸国の会員を中心として、開催地として発展途上国にチャンスを与えたい、という考えが大勢を占めたことが主因だと考えられます。

なお、理事会および総会での誘致演説を担当した高橋謙教授は、本学会前に郵送方式で行われた理事選出投票にて、小木和孝現理事の再選とともに新理事に選出されております。会長と副会長の他16名の理事会メンバーの中に日本から2名の理事が選ばれたことにつきましては、大変意義あるものであることと存じ、あえて申し添えました。

今回、残念な結果に終わりましたことを、招致委員会事務局として申し訳なくお詫び申し上げますとともに、多大な支援をいただきましたことにお礼申し上げます。

日本産業衛生学会専門医紹介

昨年、専門医を取得された九州地方会会員8名をご紹介します。

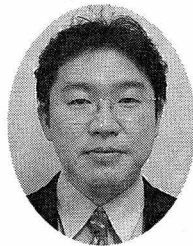
専門医試験を受験して

井手 宏

(専門医登録番号128)

(産業医科大学 産業医実務研修センター)

今回、日本産業衛生学会の専門医の中に加えていただきましたが、諸先輩方が今までに築いてこられた道の端ようやく辿りついたというのが正直な気持ちです。今回の専門医試験の経験は、現場で我流で身につけた知識の系統的な整理と再確認となった他に、自分の足りない部分や不得意とする部分も自覚できたという意味で非常に有意義なものでした。今後とも専門医の名に恥じないよう精進努力していく所存ですので、よろしくお願ひします。



専門医試験を受けて

吉積 宏 治

(専門医登録番号129)

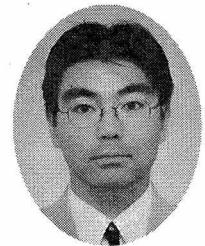
(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学)

昨年8月24・25両日にわたって、産業衛生学会の専門医試験が横浜で行われました。これまでの知識と経験を試す

意味で、思い切って受けてみましたが、聞きしにまさる激しい試験でありました。1日目は夜8時半過ぎまで試験があり、筆記の内容は衛生・公衆衛生分野だけでなく、最近のガイドラインなどに関連する事項にも及んでいました。また個人面接だけ

でなく、グループディスカッションで問題を解決するところを試験官が採点する、というユニークなものも含まれ、産業医としてあらゆる角度から評価されました。幸い合格することができましたが、あらためて弱いところも認識でき、大変でしたが受けてみて本当に良かったと思えました。

籍は研究室にありますが、産業医としては九州唯一のコスモスで有名なキリンビール福岡工場を受け持たせていただいております。今後は専門医として「現場に生きる研究活動、研究が生きる現場活動」をモットーにがんばっていきたくております。認定証をいただいたとはいえ、まだまだこれから。諸先輩方、学兄諸氏のかわらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。



専門医試験を受けて

筒井 保 博

(専門医登録番号130)

(日立金属(株)九州工場診療所)

専門医受験を決めたのは、鋳物部品製造業という3K職場の専属産業医として12年が過ぎ、仕事にも馴れてきた頃でした。最初の頃は臨床にしばらくいた間に基本講座の内容も綺麗に忘れ、企業の専門職として求められるものに対してどう答えてよいか分からず、本当に冷や冷やす事の

連続でした。その都度産業医大の東教授をはじめ諸先生方のご指導を頂き、大きな間違いもなく過ごすことができましたことに感謝いたします。

元来、要領と記憶力はあまり良くなく、試験というものは特に苦手で、自動車の筆記試験に始まり、大学受験から卒業試験に至るまでほとんど2回かそれ以上受けてきた経験からすると非常に不安だったのですが、とにかく老眼鏡が必要な歳になってくると、厚かましきだけは発達してきますので、面接やグループディスカッションよりも、やはり大量にある筆記試験の解答用紙を埋めるだけの知識を頭に詰め込む方に力を入れました。結果的に経験で覚えてきたバラバラの知識を整理・統合できたことで、現場の指導や安全衛生関係の会議を引っ張る時に大変役に立つようになりましたので受験してよかったと思います。

本来、資格・認定などは、人が心機一転、新しいフィールドで活躍できる許可証・出発点だと思いますので、今回の合格を仕事をステップアップするきっかけにしたいと思っています。これからも皆様のご指導をよろしく願いいたします。

健康と職場のインターフェース

森 田 哲 也

(専門医登録番号133)

(財団法人 福岡労働衛生研究所)

パソコンのここ数年の普及は目をみはるものがあります。もちろんご多分にもれず価格が下がったこともあるでしょうが、さまざまなハードの進歩と共にWindowsがグラフィックユーザーインターフェースを採用して使いやすさが格段に増したことが、子供までも含めて多くの人がパソコンを使いだした一番の要因ではないでしょうか。健康を取り巻く状況を考えると医療技術の進歩に比してそれを健康管理に利用しているかというパソコンの普及並みにというわけにはいっていないようです。一方テレビでは健康番組が華やかです。私は現在労働衛生機関で嘱託産業医としてさまざまな業種や規模の事業所を担当していますが、特に新規の事業所にいくほど「健康診断結果はもらったがわからない」「病院でこういわれたけれども…」etc、まだまだ健康や医療に関して知識の不足、説明の不足、理解できない、利用できていないなどを感じますし、行政上の取り組みに関しても知らない、どうしていいかわからない等の状況を目にします。そのような中で産業衛生の現場の専門医として健康に関わる医療や厚生労働行政・さまざまな労働衛生分野と職



場にいる労働者の間に立つ便利で有効なインターフェースとして活動でき、バージョンアップし続けていけるようにしたいと考えています。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

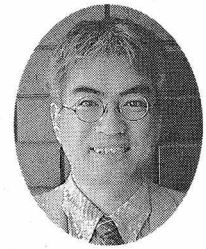
専門医認定をいただいて

大 神 明

(専門医登録番号134)

(産業医科大学 産業生態科学研究所 労働衛生工学)

医学部を卒業したときに考えていたことは、10年後に何をしているのだろうか?ということでした。大学院時代に現在の所属先であります産業生態科学研究所にお世話になる機会がありまして、そこで産業医学への強烈な興味が芽生え、大学院修了と同時に研究所に入り、外勤で嘱託産業医として数社担当して参りました。そこから私の本格的な産業医としてのキャリアの始まりになります。大学での研究テーマの一つは粉じん対策ですが、職場での喫煙対策を実践していく上で、研究のフィールドが徐々に広がっているような気がします。卒業して12年以上が経とうとしている今、専門医認定をいただきましたことは、産業医学に対する自分の今後の使命をいただいたことと認識しています。微力ではありますが、産業医そして産業医学の研究者として全力を尽くしていこうと思います。今後とも諸先輩の先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



専門医試験を受験して

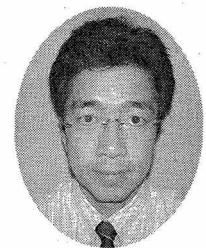
櫻 田 尚 樹

(専門医登録番号139)

(産業医科大学 産業保健学部 保健情報科学講座)

このたび産業衛生学会専門医試験の認定をいただき光栄に思います。これまでご指導いただいた先生方やお付き合いいただいた会社の方々に感謝申し上げます。

私は、産業医科大学を卒業後、放射線衛生学講座に12年間在籍し産業保健の分野でもやや特殊な領域にある放射線の利用・安全管理について関連する各種資格・免許を取得しながら教育してきました。その後は衛生学講座において広く産業保健・中毒学等に関して教育・研究に従事したのち、現在は産業保健学部において産業保健師や作業環境測定士等の養成に従事しております。この間10数年にわたって数社の



嘱託産業医を行ってきました。放射線の問題はJCOの事故などをおして一般では不安なもの代表のように認識されていますが、現在の社会において医療を含め放射線の利用は不可欠のものです。しかも物理的な性質を理解すればその利用における危険性は限りなくゼロに近く管理できます。しかしながら最も管理がずさんなのは医療分野での放射線管理であるのも現状です。今後も放射線の安全利用や化学物質の極低濃度曝露による生体影響評価などに関して労働現場との関連に注目しながら教育・研究に従事していこうと思います。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

専門医の抱負

太田 雅規

(専門医登録番号142)

(産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学)

この度、日本産業衛生学会の専門医の認定を頂き、大変光栄に思っております。これまで御指導くださった多くの先生方、関係者の方々に心から感謝申し上げます。この試験を通し、自分の弱点も明確になり、自分を見直すきっかけにもなり、この点に関しても受験して良かったと思っております。



現在、嘱託産業医活動を行いつつ健康増進に関する研究活動を行っていますが、企業における健康増進活動がもう一つ進展しない中、いかに働く人々の健康維持・増進を行っていくか、その評価はどうするか、特に企業にも受け入れられ、しかも労働者のためにもなるような評価は、ということを中心に取り組んでいこうと思っております。専門医試験を受験するにあたって様々な先生に御指導を受ける中、幅広い考え方を学び、研究活動を行っていく上でのヒントとなったと考えております。これからも精一杯大学及び産業現場で専門医としての研鑽を積んでいこうと思っておりますので、今後とも御指導のほど宜しくお願い致します。

産業医専門医としてのこれから

タナカ 千恵子

(専門医登録番号150)

(産業医科大学 産業生態科学研究所 環境疫学)

しんどい思いをした試験勉強も過ぎてしまえば、良い思い出であり成長の糧となったように感じます。専門医認定を光栄に思っているのは以前と同じですが、今は次の目標に向かって一生懸命です。



私は1990年、卒業すぐに東芝の産業医になりました。産業医としての7年間は幸福なものでした。しかし、夫(当時東芝社員)が日系カナダ人で、結婚直後に学位を取る為に母国に帰国。3年半単身で産業医を続けましたが、結局、一生続けるつもりだった産業医を辞め、カナダに渡りました。3年間は、専業主婦生活を楽しましましたが、産業医学への思い絶ちがたく、一年半前に日本にまた単身で戻って参りました。そして、やっと昨年、東芝時代からずっと目標にしていたのにも関わらず、受験する機会がないまま諦めていた産業医専門医の一員になることができました。

さて、次の目標は、カナダに戻ってからも、産業医学に貢献することです。私は、夫との約束でそれほど遠くない未来にカナダに戻らなければなりません。具体的にどのように貢献できるか、自分でも分かりませんが、やれるところまでやってみようと思います。カナダの医師国家試験も2つの筆記試験に合格し、臨床実地試験を残すのみとなりました。現在の職場で、疫学の面白さにも目覚め、疫学を通して産業医学に関わっていただけたらどんなに幸せかと夢は広がります。

専門医として全く未熟なままカナダに戻ってしまうことにはなりますが、日本の産業医専門医として恥ずかしくない形で、産業医学に貢献できるよう精進いたします。どうぞ今後とも末永くご指導ご寛容を賜りますようお願いいたします。

編集委員報告

雑 感

永野 恵

(熊本大学医学部公衆衛生学教室)

世の中、不況である。我が家の隣の若ダンナは、工業高校を卒業して、電気関係の仕事についていたが、現在、魚屋さんで働いている。また、近所には、IC関連の工場に勤めていたものの、目を悪くして会社を辞め、今は土を耕している人もいます。まだ40代の働きざかりである。主人の

土木関係の会社にも不況の波は容赦なく押し寄せ、最近の受注量は一時の半分にまで落ち込んでいるという。つつぶれてもおかしくないようだ。

話は変わるが、私は近年、教室員の協力を得て、「熊本県下におけるFRP(Fiber-glass Reinforced Plastics)製造従事者の健康問題と自主的安全衛生活動の展開」という課題に取り組む機会を得た。100人以上の1事業所を除いて、あとの10近くの事業所は数人から20人近くの小規模事業所であった。これらのほとんどの事業所は熊本市から車で1



時間から2時間も離れた農山間部や海岸沿いの田舎にあった。私がそこで実際に見て感じたものは、毎年産業衛生学会や様々な研究会で報告されているような内容や話題とはあまりにもかけ離れていた。「こんにちは」と最初に工場内にはいつか来た時に振り向いたFRPの研磨作業に従事していた男性は、こちらを見るために見開いた眼以外は、まるで頭から小麦粉を振りかけられたように顔中(まつげまで)体中真っ白で、こちらが思わず驚いてしまった。ほとんどが高齢者で、しかし80歳を超えたバリバリの現役女性の従業員をかかえていたある工場からは、一昨年のお正月前に、とうとう廃業になったと丁寧な挨拶のしがきが届いた。また別の工場では、有機溶剤のスプレー作業時のみ防毒マスクを使用するか全く使用していないかのどちらかだったが、一人の中年の女性の方だけがいつもきちっとマスクを着用していた。ところが、この方の尿中マンデル酸値が以上に高い。後でわかったのだが、この方はパートタイマーというだけで、事業主から活性炭入り吸収缶をもらうのを遠慮して1つの吸収缶を3ヶ月も着用していたのである。一家の大黒柱でありながら、給料は10万円近く(最低賃金)だが、家族が畑に米や野菜を栽培していて生計をたてているところもあった。作業環境改善……などと

言おうものなら即会社を辞めさせられる雰囲気である。ある中央の研究者にこのような話をしたら、「日本にもまだそんなところがあるんですか?」と驚いたように尋ねられた。産業保健のグローバリズム、リスクアセスメント、リスクマネジメントなどといった今日的課題には程遠い旧態依然とした零細企業で、黙々と働いている彼らの姿が頭から焼きついて離れない。

暗い話になったが、そういう中にもささやかな幸せがある。最初に登場した近所の方々とは、時にはパジャマ姿もなんのその、焼酎を片手に集まり、地域の子供の話等に花が咲く。地方の工場を訪問した帰り際に、しばしば、家で取れたという土つきの野菜や竹の子を座席に無言で積んでくれる。パッチテストのお願いをした対象者の方は、私達が来るというので、定年後の男やもめの一人暮らしにもかかわらず、家の前の小川でとれた雑魚の佃煮やお手製の漬物をテーブルいっぱい並べ待っていてくれた。そこには、暖かい人と人の交流がある。そして、不況とは言え、私が時々訪れるバングラデシュの地方の人々の暮らしを思うと、ひもじい思いをせずすむ今日の日本の豊かさは有難く、夢のようにすら感じるのである。

研究会・研修会その他案内

平成15年度日本産業衛生学会 九州地方会学会

会 期：2003年 6月13日(金)～14日(土)
場 所：福岡市健康づくりセンター「あいれふ」
(福岡市中央区舞鶴2-5-1 TEL：(092)751-7778)
学会長： 敬 博 (福岡大学医学部衛生学教室教授)

日 程：

13日(金)

理 事 会：12:00～13:00

一 般 受 付：13:00～

一 般 口 演：14:00～15:00

シンポジウム：15:00～17:00

懇 親 会：18:00～19:30

(場 所)：セントラルホテルフクオカ
(福岡市中央区渡辺通4-1-2)

自 由 集 会：19:45～21:00

14日(土)

受 付：9:00～

一 般 口 演：9:20～11:40

評 議 員 会：12:00～12:50

総 会：13:00～13:45

教育講演(I)：14:00～15:00

「健康保険における自己負担増による受診行動への影響」

演者：馬場園明/九州大学健康科学センター助教授

教育講演(II)：15:00～16:00

「職場における糖尿病患者の健康管理」

演者：布井清秀/聖マリア病院副院長

教育講演(III)：16:00～17:00

「過労死の予防対策をどうすすめるか」

演者：上畑鉄之丞/聖徳大学教授

会 費：参加費 2,000円(会員・非会員)
懇親会費 5,000円

事務局：福岡大学医学部衛生学教室内
平成15年度九州産業衛生学会九州地方会学会事務局
〒814-0180 福岡市城南区七隈7丁目45-1
TEL：(092) 801-1011(内線3305)
FAX：(092) 863-8892
E-mail：yoko@fukuoka-u.ac.jp

九州地方会 産業看護講座 基礎コース第2回開催のご案内

日本産業衛生学会九州地方会では、「産業看護職継続教育システム」に則り、14年度同様充実した講師陣を迎え、第2回「産業看護基礎コース」を実施いたします。昨年開催した第1回では、九州各県より37名が受講し研鑽を深めるとともに、受講生間の交流を深められました。また、課題である調査研究論文の合格率は、3月末現在で90%と高い実績が得られています。九州地方会産業看護部会運営の地元九州での開催は、今年度限りとなっておりますので、「日本産業衛生学会産業看護師」の登録を目指されている看護職の方は、是非受講して下さい。また、会員の皆さまのお近くにいらっしゃる看護職の方へ、受講をお勧めいただきますよう併せてお願い申し上げます。

日 程：前期 平成15年 7月11日(金)～12日(土)

中期 平成15年 8月22日(金)～23日(土)

後期 平成16年 2月13日(金)～14日(土)

会 場：福岡朝日ビル 地下会議室
(福岡市博多区博多駅前2-1-1)

定員：50名
申込締切：平成15年6月20日(金)

上記問合せ先：九州地方会産業看護部会事務局
(BOOCS情報センター福岡)
Tel (092)434-9611 Fax (092)477-7612

—第76回日本産業衛生学会 自由集会—
産業保健情報システム研究会のご案内

日時：2003年4月24日(木) 18:00~20:00
場所：ぱるるプラザ山口 (大会議室3)
(山口市惣太夫町1-15)
話題：1) これからの産業保健と情報活用
吉田勝美/聖マリアンナ医科大学
2) 産業衛生学雑誌ホームページの2年間のアクセス解析
八幡勝也/九州ヒューマンメディア創造センター
特別報告：産業医実務に関する衛星を用いた遠隔授業の有効性と課題
織田進ほか/産業医科大学
問合せ先：産業医科大学 作業病態学研究室
TEL: 093-691-7471 (事務担当：砂脇)

第15回日中韓産業保健学術集談会のご案内

会期：2003年5月15日(木)~17日(土)
会場：沖縄コンベンションセンター
(沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1)
TEL: (098)898-3000/FAX: (098)898-2202
シンポジウム：中小企業の産業保健
ワークショップ：職業性疾患(呼吸器等)
参加費：US\$100.00

*1st Announcementは下記へお申込みください。

大会長：琉球大学医学部 教授 有泉 誠
事務局長：琉球大学医学部医学科保健医学講座 等々力英美
〒903-0215 沖縄県西原町上原207
TEL: 098-895-1136 FAX: 098-895-1412
E-mail: jck2003@med.u-ryukyuu.ac.jp

韓日中産業保健学術集談会日本事務局

事務局長 東 敏昭
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 作業病態学研究室内
TEL: 093-691-7470 / FAX: 093-601-2667
E-mail: kjcjc@mbox.med.uoeh-u.ac.jp (事務担当：吉村)
登録費：1万円
(2003年1月~2005年12月までの3年分とする)

九州地方会理事会報告

平成14年度第2回理事会が、平成14年12月14日(土)14時~16時の間、福岡産業保健推進センターにおいて開催された。

出席者は、地方会長、理事12名、監事1名、幹事2名、ほか1名の計17名のもとで開催された。議題は、

1. 平成14年度第1回理事会議事録要旨(案)の確認について
 2. 平成14年度事業報告及び決算中間報告について
 3. 平成15年度事業計画及び予算(案)について
 4. 平成15年度地方会学会の開催について
 5. 平成16年度地方会の開催地について
 6. 地方会各理事分掌事項について
 7. その他
- であった。

また、平成15年度に開催が予定されている研究会は、「失業と健康」研究会、第18回健康管理研究会、産業看護研究会、労働者の生涯健康の支援を考える研究会、第31回有機溶剤中毒研究会、第31回生物学的モニタリング・バイオマーカー研究会、第103回九州医師会医学会第7分科会・産業医学会がある。

編 集 後 記

[館正知先生のご逝去]

平成15年3月6日23:00に亡くなりました。3月4日開催の本学の産業医科大学理事会にご出席のため前日よりゲストハウスにお泊りになっていましたが、4日朝方に体調が悪化され本学病院にて対応の後、ご自宅に移られて永眠されました。周辺のお話を伺うと、最後まで立派に仕事をこなされ、また、適切な指導力を発揮されながらの急逝で、故人のお人柄を思うにつけ、大きな人物にふさわしい生き方であった感を新たにします。心からご冥福をお祈りします。また、親友(館先生は戦友と表現されていましたが)であった故土屋産業医科大学学長とともに、これからも日本ならびに世界の産業保健の発展を見守っていただきたいと願います。(東 敏昭)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成15年3月31日

編集正責任者：東 敏昭 (産業医科大学)
編集副責任者：加藤 貴彦 (宮崎医科大学)
編集委員：青木 一雄 (大分医科大学)
青山 公治 (鹿児島大学)
石竹 達也 (久留米大学)
市場 正良 (佐賀医科大学)
大村 実 (九州大学)
永田 耕司 (活水女子大学)
永野 恵 (熊本大学)
日笠 理恵 (福岡県市町村職員共済組合)
山城 愛子 (沖縄タイムス社)
吉積 宏治 (産業医科大学)

(五十音順)

(編集事務局連絡先)

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 産業生態科学研究所
作業病態学研究室(担当：吉積、砂脇)
TEL (093) 691-7471 FAX (093) 601-2667
E-mail: saneikyushu@pumpkin.med.uoeh-u.ac.jp